

令和8(2026)年度 下都賀地区言語障害通級指導等担当教員研修会を開催しました

日時 令和8(2026)年6月11日(木) 13:30～16:00
会場 下都賀庁舎(大会議室)
対象 下都賀地区小・中・義務教育学校 言語障害通級指導担当教員等
(言語障害のある児童生徒に対応している教員や通常の学級担任等)

I 研修の目的・内容

(1) 目的

言語障害通級指導等に関わる基礎的知識や技能を習得し、担当者としての資質と指導力の向上を図る。

(2) 内容

講話・演習 「不明瞭な発話への支援」

講師 栃木県立リハビリテーションセンター 浅川 知佳 言語聴覚士

2 本研修で確認したこと

(1) 特別支援教育の推進について

ア 栃木県の取組：「とちぎ教育ビジョン 2026－2030」(多様なニーズに対応した教育の充実)

イ 下都賀地区の取組：下都賀地区学校教育の重点

「一人一人の教育的ニーズに応じた特別支援教育」

ウ 初めて通級による指導を担当する先生のためのハンドブック

「構音指導の具体例・通常の学級の担任と通級による指導の担当教員との連携」

(2) 不明瞭な発話への支援

ア 不明瞭さの要因について

・なぜ不明瞭になるのか

イ 言語発達について

・学童期の言語発達について

・音韻意識とは

ウ 構音について

・構音の獲得時期について

・構音障害の分類

・構音指導について

エ 吃音について

・吃音の言語症状

・学童期のアプローチ



本研修で学んだこと（参加者が記入した「研修の振り返り」から）

【講話】

- ・言語聴覚士の先生から、具体的な構音指導の方法を学ぶことができて、大変参考になりました。舌圧子やストローを用いて具体的に実演練習をすることができ、非常に分かりやすかったです。すぐに指導で実践してみようと思いました。
- ・言語聴覚士の先生による指導の実際について、演習を交えて学ぶことができました。自分が指導している児童の中に、なかなか指導の効果が出ない児童がいて悩んでいましたが、どのくらい時間がかかるかは個人差が大きく、また指導の基本部分は間違っていないことが確認でき、自信をもつことができました。
- ・言語聴覚士の先生から直接構音指導の方法を教えていただくことができ、早速次の日の指導から生かして授業をさせていただきました。
- ・講話を聞きながら、通級児童とのやり取りを思い浮かべ、改めて指導方法を確認できました。
- ・視覚支援も有効であるとのことで、読むときに文字ではなく、記号を使って分かりやすくする工夫もしていきたいと思います。
- ・聞くことの中で「音韻（人が頭の中で、同じ音・違う音として認識する抽象的な概念）意識」が、読み書きの基礎になる重要な役割があるということを学びました。これが未熟だとことばの発達にも影響があるということが重要だと感じました。
- ・構音練習では、うまくいかなかったら前段階に戻るなど根気強く行うことも大切と感じました。吃音については、「スキルアップの話し方」の資料が参考になりました。

【協議】

- ・実際の指導での課題や指導方法を各市町の通級担当の先生方と話し合うことができたので、大変有意義な時間になりました。
- ・各校の先生方の事例を聞き、自分が担当することになったらどうすればよいのだろうか考える機会ができました。
- ・協議の時間には、講師の先生が各テーブルを回ってくださり、私たちの質問に丁寧に答えていただき大変勉強になりました。
- ・自立活動で実践できるような活動の提案をいくつも頂くことができたので、是非、これから一つ一つ実践していきたいと思っています。
- ・グループ内の中学校の先生と協議した際に、中学校への接続も見据えた指導の重要性にも気付きました。今後は、中学校進学も見据えた長いスパンでの支援も視野に、指導をしていきたいと思っています。
- ・それぞれ別の場所でも、同じ志を持ち支援をしている仲間がいると実感でき、「また明日からやるぞ!」と思える力を頂きました。

